



—東地中海地域ニュース—

レバノン：組閣遅延を巡るスレイマーン大統領の立場 (8月27日付アル・アフバール紙)

8月27日付「アル・アフバール」紙（ヒズボラ系）が「スレイマーン大統領は組閣の停滞に不満、解決への提案を準備」と題した記事が掲載された。その概要は以下のとおり。

1. スレイマーン大統領は、(6月下旬に組閣要請を受けた) サアド・ハリリー次期首相の大統領府への訪問を待っているが、関係者及び観測筋は、同訪問の日程は決まっていないとして、次期首相による組閣協議に進展があれば、両者の会談が行われるであろうと述べている。今日から1週間以内に会談が行われなければ、スレイマーン大統領は9月1日の大統領府でのイフタール（注：断食後の夕食会）にて組閣問題を決着させるための何らかの提案を行うであろうと見られている。
2. スレイマーン大統領は、レバノン問題がイランやイラク等の地域内諸問題とリンクしており、組閣には国外からの指示が必要であることを承知している。大統領は、全ての関係者に対して、国内を注視して国外のアジェンダに従った行動を取らないように求めているが、これが不可能であることも承知しており、25日には組閣に関するシリアの立場について理解を深めるために、バッシャル・アサド・シリア大統領に連絡を取った。
3. 大統領府を訪問した者によれば、スレイマーン大統領とシリア指導部との間でハイレベルな調整が行われており、シリアとの関係進展を確認すべく、大統領はハリリー次期首相に先んじてシリアを訪問する予定であった。但し、かつてはレバノンから3名の指導者（注：大統領、国会議長、首相を指す）が揃ってダマス詣でを行っていたのと異なり、今回の大統領のシリア訪問は、ハリリー次期首相のシリア訪問とは別に行われる予定であり、組閣発表まで延期となった。
4. 又、大統領府訪問者によれば、大統領は、組閣作業の遅延に不満を有しており、ハリリー次期首相とアウン将軍（キリスト教マロン派「自由愛国運動」党首）との間の対立こそが、その主たる原因と考えている。迅速な組閣と国外からの指示が待たれている中、9月22日にサウジアラビアで行われるキング・アブドゥラー科学技術大学の開校式には、シリアやレバノンを含めたアラブ諸国の首脳も出席すると見られている。そこではレバノン問題全般及び組閣遅延問題について、レバノン側関係者とアラブ諸国首脳の間で直

接協議することが可能になるため、同開校式に大きな期待が集まっている。更に、9月23日にニューヨークで開催される国連総会の片隅でもレバノン問題が協議される見通しであり、組閣問題の解決はレバノン国内で行われるのではないとの認識の下、これらの機会に期待が高まっている。

5. 尚、大統領府訪問者によれば、スレイマーン大統領は、国防相と内務相の両ポストを自分の下に温存しつつ、双方のポストを与野党間の争いから遠ざけ、治安問題を政治化させないようにしている。又、同大統領は、前回の総選挙で落選した女性候補者を大統領派の閣僚ポストに任用することも検討していると言われているが、大統領の側近達はそうしないように助言しているとのことである。